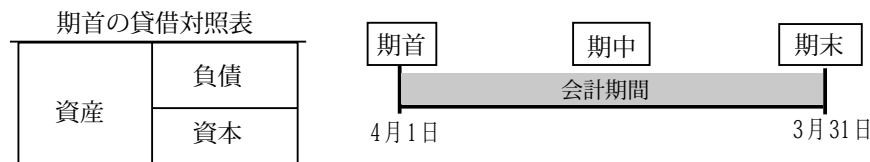


5 簿記と財務諸表

損益計算書と貸借対照表の作成は、複式簿記による一巡の手続きによって作成されます。

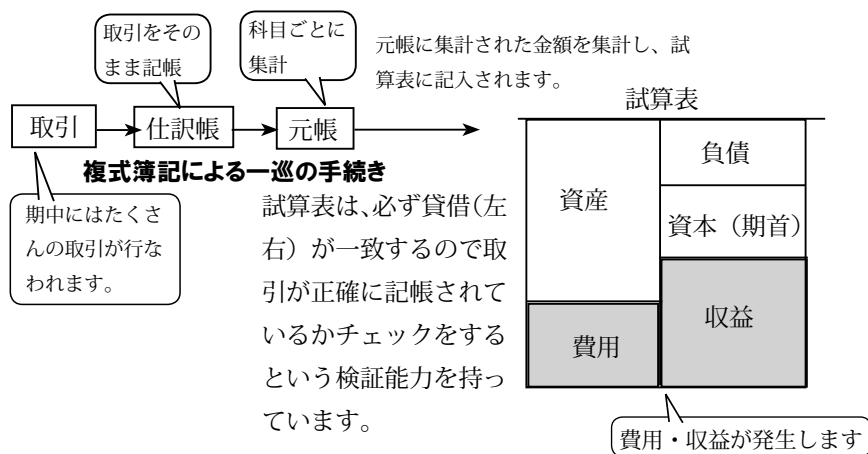
期首 会計期間のスタート

当期は前期から引き継いだ資産、負債、資本から始まります。



期中

当期において取引が開始されると、複式簿記によって会計情報が記録、計算されていきます。



用語

複式簿記

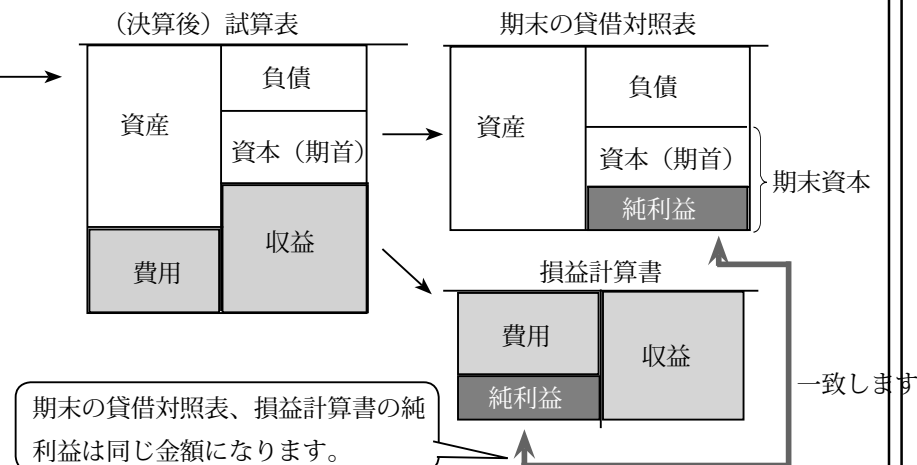
取引を因果関係に基づいて借方、貸方という二面で捉え、その会計情報を勘定科目と金額をあてはめて記録、計算、報告していくことです。

期末

会計期間のゴール

決算整理

決算において、当期の収益・費用が確定し、(決算後) 試算表に基づいて損益計算書、貸借対照表が作られます。



当該会計期間で、収益と費用が発生し、それがこの期間にどれだけ財産が増加(純利益)したのかが損益計算書に示されるのです。つまり、期末の貸借対照表では、期末資本として期首の資本と当期の増加分である純利益を加えた分で計算されるのです。

確認問題

次のようにデータが示された場合、期末純資産と収益の組み合わせとして妥当なものはどれでしょうか。

期首純資産	30,000 円	期末総資産	150,000 円
期末総負債	100,000 円	費用	60,000 円

	期末純資産	収益
1.	50,000	20,000
2.	50,000	80,000
3.	70,000	90,000
4.	120,000	20,000

(国税専門官試験 改題)

考え方のプロセス

プロセス-1 純利益（または純損失）の求め方

純利益（純損失）は損益計算書、貸借対照表のどちらからも求めることができますのでそれによって方程式を作っていきます。

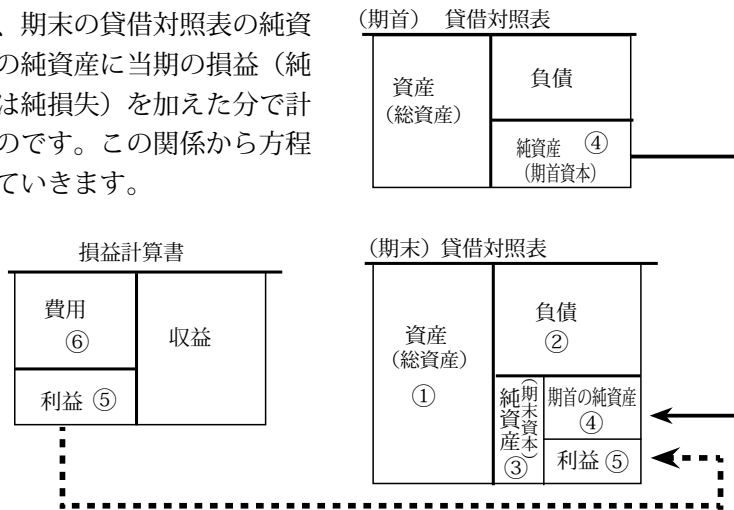
$$\begin{aligned} \text{純損益} &= \text{収益} - \text{費用} \\ \text{純損益} &= \text{期末資本（期末の純資産）} - \text{期首資本（期首の純資産）} \end{aligned}$$

この問題では、資本は純資産、資産は総資産としているので混同しないようにしましょう。

プロセス-2 期首の貸借対照表と期末の貸借対照表の関連

当該年度で、収益と費用が発生し、どれだけ損益が生まれた（財産が増減した）のかが損益計算書に示されます。

さらに、期末の貸借対照表の純資産は期首の純資産に当期の損益（純利益または純損失）を加えた分で計算されるのです。この関係から方程式を作っていきます。



期末総資産① 150,000 円 - 期末総負債② 100,000 円 = 期末純資産③ 50,000 円

期末純資産③ 50,000 円 - 期首純資産④ 30,000 円 = 純利益⑤ 20,000 円

収益 X 円 - 費用⑥ 60,000 円 = 純利益⑤ 20,000 円より、

収益 = 80,000 円 となり、正解は 2